鎌倉彫の魅力を発信

高校生が小さな写真展開催

鎌倉の伝統工芸品・鎌倉彫の魅力を伝えたいと、県立七里ガ浜高校3年の田邊真和（まな）さんが、6月中旬から鎌倉市雪ノ下のさかい内科・胃腸科クリニックの待合室に鎌倉彫の写真を展示されており、好評だ。

鎌倉彫の作品だけでなく、職人さんの手や彫刻刀、制作過程の写真など12点のパネル展示で、説明書きも添えられている。

田邊さんは、高校1年生の地域理解の校外学習で鎌倉彫店に展示されていた鎌倉彫に出会った。幼いころから、陶器や漆器に馴染んでいたこともあり、その彫りの味わいと木の温もり、深みのある色調などに魅かれ、鎌倉彫のことを知りたいと機会をうかがっていた。2年になって、鎌倉彫工芸館を訪れた。高校生の田邊さんが専門店の扉を開けるのは勇気がいることだったが、事情を話すと、事務所の人がいろいろなことを説明してくれて、職人さんも紹介してくれた。何回も訪れるうちに、職人さんとの話す場を設けてもらったり、仕事場を見学させてもらい、写真もたくさん撮った。

鎌倉彫の写真と田邊さん

この伝統工芸品のことを多くの人に知ってもらいたいと、高校のOBで、同校で開かれた講話会で話を聞いたことのある医師の酒井太郎さんに相談したところ、「公共の会場で写真の展示やワークショップなどができたらいいが、コロナ禍で今は難しい。とりあえず、自分の病院で展示しましょう」といってもらい、同工芸館の協力も得て、展示が実現した。同院の待合室は、壁にピクチャーレールが設置されていて、開院当初からギャラリーとして使用されている。月替わりで様々な展示をしているので患者さんにも喜ばれているという。

田邊さんは「工芸館は心のよりどころになっている。酒井先生のおかげで展示できたことは自信にもつながった。これからも鎌倉彫のために何かしていけたらうれしい」と話している。

開成中学校の生徒や市民ら約650人が参加した＝写真は逗子市役所提供。

田越川一斉清掃2年ぶり

大型ゴミの収集も

「仲間や家族と一緒に田越川の掃除をしながら、水生生物や水辺の植物などに触れ、豊かな逗子の自然を体感しよう」をテーマに、6月12日逗子の田越川一斉清掃が行われた。好天の下、JRや京急、市役所、郵便局、地元スーパーの職員、逗子開成中学校の生徒や市民ら約650人が参加した＝写真は逗子市役所提供。

昨年はコロナ禍で中止されたため、2年ぶりの開催で、パソコンやタイヤなど大きなゴミもあった。

回収されたごみの量は上流で220kg、下流で1480kg、総量が1700kgになり、一昨年の440kgを大きく上回った。

田越川・久木川一斉清掃実行委員会の副代表・北川雄平さんは「ゴミは年々減ってきているが、今回は2年分のゴミだった。河口の清掃もしばらくぶりに行った」と話していた。自然に親しもうと子ども連れの姿も目立ったという。

琴を通して心豊かな人生を

鎌倉・月光庵で教室スタート

鎌倉市小町の月光庵で、4月から琴の教室が始まった。

「家にお琴があるけれど弾いたことがない」「昔習ったけど忘れたので教わりたい」「琴を弾いてみたい」という人のために、気軽に琴を楽しめる場をつくりたいと、庵主で、茶道裏千家の正教授・岩波宗正（そうせい）さんが、月光庵の茶室を琴の教室用に提供することにした。

教室を担当するのは、庵主のお茶の弟子でもある、芸名・菊色彩さん。

菊色さんは、芸歴40年の生田流師範で、3歳から琴を習い始め、小学4年生のときコンクールで入賞した。その後、師範となり、ずっと稽古を続けている。

日本の伝統文化の琴を普及させることは、SDGsの開発目標の教育や健康、環境などの分野につながると意欲を燃やしている。伝統の大切さや作法なども自然と身につけられ、稽古後は月光庵の茶室でお茶とお菓子をいただくことができる。

琴教室の稽古風景＝月光庵で

稽古に使う琴や爪などは用意されているので、何も持参する必要がない。現在、尾崎弓さん（10）と小池ますみさん（7）が稽古に励んでいる。

菊色さんは、「琴を通して老若男女にかかわらず、日本の伝統文化に触れ、心豊かな人生をすごしませんか」と参加を呼びかけている。

京急バス「大学前」バス停前。問い合わせ月光庵☎0467・61・3255

※詳細は月光庵ホームページ参照。

文学つれづれ ⑱⑨

吉川英治「宮本武蔵」（十四）

赤羽根龍夫

その後、お通はどうなったであろうか。

武蔵を求めて旅を続けるお通は、故郷の姫路までやってきて武蔵の姉のお銀の噂を聞き、会いに行く途中お杉婆に捕まってしまう。

お杉婆は故郷の播磨に帰ってきた武蔵の弟子の城太郎に捕らえられる。城太郎はお杉婆を、お通と武蔵を苦しめる元凶と洞穴に閉じ込めてしまう。

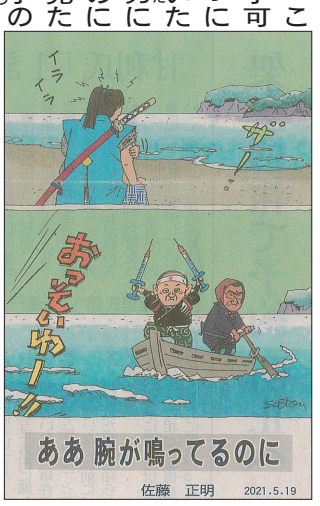
お通は武蔵が近々小倉で小次郎と真剣勝負をすると聞かされ、武蔵に会いに行こうとするが、城太郎に捕まったお杉婆のことが気がかりで豪雨の中を探しにいく。

洞穴の中に閉じ込められているお杉婆を見つけたお通は必死になって助け出そうとするが、お杉婆はお通に罵詈雑言を浴びせ、洞穴から助け出してくれたお通の黒髪を引きずりまわし、踏んだり打ったりの折檻を加える。死んだようにぐったりしたお通を見て婆はハッと気が付く。

恐ろしや、恐ろしや。子ゆえの闇とは、このことか。わが子可愛さにひとの子には、鬼となっていたか…お通よ、其方（そなた）にも親はあったものにのう。親御から見たらこのばばは、子のかたきじゃ、羅刹（らせつ）じゃ、…ああわしのすがたは夜叉（やしゃ）ともみえたであろう！

やっとのことで息を吹き返したお通を婆は心を込めて看病し、お通を武蔵に会わせようと、豊前通いの便船を待つ。

一方、江戸城で2代将軍秀忠を鉄砲で狙う大罪を犯そうとしたお杉婆の息子・又八は沢庵和尚に命を救われ、僧形になり、武蔵の勧めで愚堂和尚の弟子になったが、自分が生ませた子を背負って川原で惨めな姿で物売りをしている朱美を見つけて、還俗して一緒に暮らす決心をする。二人もまた武蔵に会おうと小倉へと向かう。



多くのメディアで取り上げられている巌流島の決闘＝東京新聞2021年5月19日朝刊

なぜ巌流島で武蔵と、細川藩の兵法指南になった小次郎が決闘することになったのであろう。その原因を吉川英治は「小次郎でも自分でもない気がする。むしろ周囲だと思う」と武蔵に述懐させ次のように云う。

いつとはなく、二人を対峙させ、二人を試合わせてみることに、世間が先に、興味や期待を大きくして、「やるそうだ」といい、「やる」と断じ、遂に、「いつの何日」と、まだうわさのうちから、日までも取り沙汰されて来たのだった。

武蔵は自分が世間の評判になったことを後悔するが、同時に生きていくこと自体が「世間の恩」であるので、世間を無視することはできないと思う。

この辺りは賛否両論がある所であるが、吉川英治の「世間」に対する考え方がよく出ている。とに角、お通や又八、お杉婆、伊織、城太郎、夢想権之助など武蔵を慕う人々が小倉へと集まって行く。

武蔵を迎え討つ小次郎は援護者である藩の重臣・岩間角兵衛の心配りを受け、多くの賛同者の訪問を迎え、自分を大きく見せるためゆったりとした時間を送っていた。

一方武蔵は、あちこちで自分を迎え、見送ろうとする人々の目を避けるようにして単身小倉にやって来る。そして藩の家老が用意した宿舎を避けて、海辺の廻船問屋に宿を求めた。なぜ武蔵は廻船問屋を宿としたのか。

武蔵の慎みでも藩の重臣が一方に加担して迷惑をかけることになることを避ける配慮でもない。この時点で既に巌流島での二人の戦いは始まっていたのである。

武蔵は自分の勝利を確信していた。なぜか？

（神奈川歯科大名誉教授）

読書

『湘南のお地蔵さま』『続　湘南のお地蔵さま』

中島淳一著

藤沢市在住の中島淳一さん（65）が5月に『続湘南のお地蔵さま』を出版した＝写真。

4年前に発行された『湘南のお地蔵さま』の続編で、前編は月刊紙「江ノ電沿線新聞」に2000年から4年にわたる連載をまとめたもの、今回は2017年から今年4月までのもので、連載は今も続いている。

著者は、高校のときから仏像に興味を持ち、大学でも仏像研究のサークルに入り、奈良・京都の寺を巡った。藤沢市役所に就職し、藤沢市文書館で文化財の調査などに携わった。2017年に定年退職し、現在茅ヶ崎市史編さん委員会の委員を務めている。

道端や寺などでよく見かける仏さまで、お坊さんの姿をしていて、たくさんの人に親しまれている「お地蔵さま」を紹介しようと湘南に地域をしぼり、何々地蔵と名前のあるものを取り上げた。地域は、鎌倉・藤沢・茅ヶ崎・葉山・逗子・横須賀・箱根など。鎌倉の月影地蔵やどこもく地蔵、藤沢の北向地蔵、箱根の六道地蔵などよく知られているお地蔵さまから、花咲地蔵（鎌倉）や平松地蔵（葉山）など地元で親しまれている地蔵さまで50体ずつ掲載されている。

横須賀の勝軍地蔵は甲冑を着け、兜を戴き馬に乗っている珍しい姿をしていて、最近になって拝むことができるようになったといい、横須賀市久里浜の見返り地蔵は、振り向いて慈悲の心で私たちを救ってくださるかのような姿で趣きがあるという。「自分自身、健康面でもお地蔵さまに助けてもらい、お地蔵さまが人とのつながりや道筋をつけてくださるように感じる」と著者は話す。

交通手段が記載されているので参拝に便利。

815円、続編は880円、江ノ電沿線新聞社刊☎0466・26・3028

終の棲み家を考える ㊼

〈屋根編1〉値段は正直

家を創る時外観のデザインをどうするかは大きな要素です。和風の家でも洋風の家でも屋根をどんな形にするかでイメージが大きく変わります。

屋根材には大きく分けて瓦・スレート・金属・樹脂などが有り、意匠と予算に合わせて選ぶことになります。屋根の工事費の内容を考えると、家全体の躯体は別にして、垂木・野地・下葺き材・仕上げ材となっています。

予算に合わせて仕上げ材の事が気になると思いますが、本当に大事な事は垂木・野地・下葺き材です。比較的安価なカラーベストを選択した場合、垂木のサイズが小さかったり、野地板が薄かったりしてもお客様にはわかりません。ましてや下葺き材がどんなもので施工されているかなど、知りようがありません。

費用を抑えるためには性能のよいものは使えないので当然安価なものが使われています。垂木のサイズが小さく・野地板が薄く・下葺き材が安価なものでは長持ちしません。屋根に人は乗らない方がよいのですが、このような屋根に人が乗ると必ずしなります。

施工したてのカラーベストは弾力があるので割れませんが、経年すると固くなり割れることが多くなります。素人には理由がわからない「雨漏り」がここにあります。

■日向建設　鎌倉市大船1―15―3
☎0467・47・5454　http://www.hyuuga.co.jp